令和５年度　せつこっこクラブ２月

「赤ちゃん&こどもアート鑑賞会」

開催結果報告

日　　時：令和６年２月２５日(日)
　　①９：３０～１０：３０　②１１：００～１２：００
　　③１３：００～１４：００
参加人数：０歳～小学生までのお子さんと保護者：４７人
　　①子ども８人、大人１２人、合計２０人（７組）
　　②子ども８人、大人１０人、合計１８人（７組）
　　③子ども４人、大人５人、合計９人（４組）
参 加 費：無料（保護者は三岸節子コレクション展（常設展）観覧料３２０円が必要）
講　　師：冨田めぐみ先生
　　(NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)
職　　員：野田、丹野、恒川、名和

今回で３回目となる「赤ちゃん&こどもアート鑑賞会」。今回も講師に、全国の美術館で赤ちゃんや子どものための鑑賞会や、造形ワークショップを開催している、NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事の冨田めぐみ先生をお招きしました。

回を重ねる毎に開催する曜日や回数、募集方法等を講師と学芸員で話し合い、工夫して行っています。前回までは午前・午後の２回開催でしたが、「午後は赤ちゃんのお昼寝の時間と重なって参加しにくい」、「希望の時間が午前に偏ってしまい、抽選漏れが出てしまう」等の反省から、今回は午前２回、午後１回の合計３回開催とし、オンライン申込を導入して第３希望まで欄を設けました。その結果、ご応募いただいた方全員に、いずれかの回にご参加いただけることとなりました。また、土曜日開催から日曜日にしたことで、お父さんのご参加も増えました。特に小さなお子様やご家族向けのイベントでは、回数や日時に関する小さな配慮を重ねることで、参加のしやすさが違ってくることを実感しました。

最初に、展示室とは別のお部屋に集まります。ここでは、講師から保護者に向けての

ガイダンスを行い、その間、赤ちゃんはマットの上に寝転がったり、小さな子はお絵かきしていても OK です。内容は、子どもがアートを鑑賞する意義、関わり方や発達との関連についてのガイダンスで、この時間をとることで親子ともに安心して鑑賞しできる鑑賞が醸成されていきます。

冨田先生と「美術館でのおやくそく」を確認した後は、いよいよ三岸節子コレクション展（常設展）「花より花らしく」の展示室へ。去年はお父さんと二人で参加だった男の子は、今年は赤ちゃんを抱っこしたお母さんも一緒、リピーターらしい落ち着いた足取りで室内を巡り始めます。

先のガイダンスで「気になった作品をみつけてね」というお話しを聞いていた、幼児期の子どもたちは、保護者の方や冨田先生に「どうしてその作品が気になったのか」一生懸命お話ししていました。アンケートからは「親以外の第三者（冨田先生）とお話ししている様子がほほえましかった。（２歳２か月）」という感想もありました。美術の知識を一方的に与えるのではなく、他者とのコミュニケーションを育むのも、この鑑賞会が目指すところの一つです。

お話しをすることだけが、コミュニケーションではありません。ある１歳９か月の子は、初めて美術館に来て、最初は落ち着かないそぶりでしたが、赤と黒のコントラストが印象的な《花（ヴェロンにて）》（1989）を見つけると、黙ってその絵を見つめ始めました。冨田先生はあえて話しかけず、お母さんに目で合図をして、その子が離れるまでその絵を見せてあげようと

いうことになりました。その結果、なんと２分間も一つの絵を黙って見ていたのでした。絵を見ている間、その子の頭の中ではどんなことを考えていたのでしょうか。アンケートでお母さんは「２分も集中して見ててすごかったね！」と感想を寄せてくださりました。一人一人にあった鑑賞スタイルを重んじて、鑑賞会は進みます。

最後の「気になった作品」の発表も、参加者数や子どもたちの年齢、当日の流れによって異なります。展示室の中で、気になった作品の前に行ってお話ししてもらう回もあれば、最初のお部屋に戻って、モニターに作品を映しながら振り返る回も。その時の子どもたちの状態に合わせて、リラックスしてお話ししやすい状況をその都度設定します。

子どもが親の言うことを聞いてくれなかったり、走り回ったりしやすい時期は、美術館に行くのに気後れしがちですが、「１歳半から２歳くらいのイヤイヤ期の子こそ、この鑑賞会に来てください。」と冨田先生は言います。「自分だけで子どもを美術館に連れて行くのは大変な時期ですからね。みんなで鑑賞しましょう。」と。当館では「赤ちゃん＆子どもアート鑑賞会」がある日はあらかじめ一般来館者に告知してあり、当日来た方向けにもお知らせをさせていただいています。ですので、子連れで美術館に行くのが初めてという方も、ぜひ安心してご参加ください。（学芸員　野田）